

第7次大牟田市総合計画 まちづくり総合プラン(案)に関する
審議会での意見・要望

I 計画策定の意義

意見・要望はございません。

II 計画の位置付け及び期間

意見・要望はございません。

III 第6次総合計画の振り返り

- (1) 令和2年7月豪雨災害がピックアップされているが、令和2年7月豪雨災害だけをピックアップして、「災害は完結しました・復旧が終わりました」という記載の仕方はどうなのかと思う。
- (2) U I J ターン就職については、取り組んでいる自治体が少ない。若者が大牟田に残る選択肢を選ぶことができるし、若者の人口流出を食い止められるのではないかと思うので、第7次総合計画(案)にも記載してほしい。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の対応の項目でプレミアム付商品券の発行支援という項目があるが、ここに記載することで、新型コロナウイルス対策のために実施したように捉えられてしまうのではないかと思う。新型コロナウイルス対策の意味合いも含まれるとは思いますが、消費喚起など様々な意味で以前から取り組んでいるものであることから、もう少し大きな意味合いで記載することを検討してほしい。

IV 本市を取り巻く社会背景と課題

- (1) 国においては、子育て関係の予算を増やして少子化対策に取り組むこととしているので、その辺はもう少し反映されても良いのではないかと思う。
- (2) 「若い世代にいかにも大牟田市に住んでもらうか」といった視点により取り組んだ」という表現については、「若い世代に大牟田に住みたいと思ってもらいまちづくりに取り組みます」という表現の方が前向きで良いと思う。

V 目指す都市像と基本目標

- (1) 基本目標3について、自助、共助、公助との考え方に加えて、互助も加えた方が良いと考える。このような言い回しの際、この四つを並べることが多いと思う。

VI 人口

- (1) 以前、日本創生会議が消滅可能性都市を発表し、その中に大牟田市が入っていた。大牟田市においては、年間の出生数が700人弱であり、これに対して亡くなる方は約3倍で、このままいけば人口は減っていく一方である。若者や女性が住みたくなるような施策を取り入れていただきたい。
- (2) 人口10万人という1つの数字を意識してまちづくりに活かしていただくとともに、数字に関してはこだわっていただきたいと思う。

Ⅶ 都市像実現のために取り組む施策

1 編 「未来を担う心豊かで元気な人が育まれるまち」

第1章 安心して出産・子育てができる環境づくり

- (1) 少子高齢化が進む本市において、このまま何も施策を打たなければ、人口は減少するばかりであるため、近隣市等で実施されている18歳以下の高校生までの医療費の無償化や、出産祝い金（1人目・2人目・3人目・4人目）給付金制度を導入してはどうか。

第2章 持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成

- (1) いじめや不登校に対しては、学校内だけで対処するのは困難な場合もあり、事例に応じて外部の専門家などを入れて対策を講じる必要があるのではないか。
- (2) 学校再編に当たっては単なる数合わせではなく、地域の生活圏や、地形などを考慮して行う必要がある。

第3章 高等教育機関等との多様な連携や交流の推進

- (1) 高等教育機関等と市が連携協定を締結し、取り組んできたことや連携協定の内容について情報発信をして欲しい。
- (2) 学生等のまちづくりへの参加だけでなく、定着に向けた取り組みが必要。

第4章 学びを通じた人とのつながりの促進と、地域で自ら行動するひとの育成

- (1) 積極的なコミュニティづくりやコミュニティデザインなど、まちの将来につながる施策であり、実際に推進するための指導者、時間、空間をどのように確保するか、しっかりとした展望を持つべき。
- (2) 「郷土愛の醸成」などと合わせ、若い世代に大牟田にどのような企業があるのかを伝えるなど、大牟田市に残ることも将来の選択肢に含めてビジョンを描けるよう必要とされるサポートをお願いしたい。
- (3) 小中高校生が市内で就職できる企業の紹介や、学習したものを表現できる

場となる起業を支援するなど、若い世代が大牟田から出て行くことを防ぐため、大牟田の魅力を継続して伝える取組みが必要と考える。

第5章 スポーツに気軽に親しめる機会と環境づくり

- (1) eスポーツについては、スポーツとしての認知がかなり進み定着している状況にあり、計画の中に記載する必要があるのではないかと考える。
- (2) eスポーツは、青少年当事者にとってはれっきとしたスポーツ。近い将来オリンピック競技にも必ずなるようなもの。eスポーツにはデジタルリテラシーの差や認識の差があるが、その垣根をなくすことについて検討することで、身のある計画になると考える。
- (3) 中学校部活の団体競技については、各学校単位では存続はできず、他校と合同で実施するなど工夫している。指導者の派遣や育成とともに、新しくなる総合体育館などの施設も利用しながら、全国的に弱まっているスポーツ力、競技力を高め、子供たちに夢を持ってもらえるよう取り組んでいただきたい。
- (4) 体育館などの学校施設開放について、児童生徒はもちろん地域活動で利用される機会もあるため、安全上も整備に気を配るべき。
- (5) 「する」スポーツに偏りが見られるため、「みる」スポーツとして、新しくなる総合体育館において、全国大会やプロの試合を誘致する取組みを下支えする仕組みづくりを、行政で取り組んでもらいたい。
- (6) 「する」「みせる」「ささえる」に加え、障害者や高齢者の健康増進を含め、他団体、関係団体との連携強化を進めて欲しい。

第6章 郷土の歴史と文化芸術を通して心豊かに生活できる社会づくり

- (1) 郷土という言葉は、もともといた人のふるさとという意識が強い。人口減少や移住者の増加、ダイバーシティの中では、施策名における郷土という言葉は、地域等に変更した方が良いのではないかと考える。
- (2) 音楽は自分のモチベーションを保ったり、意識を上げたりする、人間にとって大事なツールの一つであるため、文化として前向きに捉えていく必要がある。質の高い音楽だけでなく、子どもたちに人気の音楽にアプローチするなど、

多様な音楽をとおして青少年の心を捉えていく 10 年間にしてほしい。

- (3) 商店街などでまちなかコンサートを実施し、市民の発表の場、次のステップアップになる仕組みを作ることが大事である。また、まちなかコンサートには、地域活性化や経済効果もあり、まちづくりにとって非常に効果的なものと思う。
- (4) おおむた大蛇山まつりは歴史あるものであり、文化として捉えることが大事だと思う。
- (5) 動物園については、本章では触れず 2 編 2 章に記載されているが、記載を分けることで予算も縦割りになってしまう。観光の視点でも、文化の視点でも記載することで、それぞれで予算が確保され、事業が更に充実すると考えられる。

第 7 章 人権や多様性を尊重し、自分らしい生き方が選択できる社会づくり

- (1) LGBTQ について、直近では法律化されたが、地方ではまだ理解が進んでいない。医師会の協力を得るなど、先手の対応をお願いしたい。
- (2) LGBTQ に関しては、当事者の生の話を聞くと身近に感じることができる。実際に当事者の声を聞くといった取組みがもっと広がってほしい。
- (3) 国際化の進展で大牟田市に定住している外国人も増加しており、外国人の人権も考慮した対策についての記述が必要。

2 編 「新たな魅力や価値が創造され、人が集い、働き、にぎわいのあるまち」

第 1 章 持続的に発展する地域産業の振興とイノベーションを生み出す新産業の創出

- (1) 道の駅について、農家の農産物、水産品、食品などをアピール、販売支援や観光資源の PR など、様々な地域支援施設としてまちの活性化に寄与する施設となるよう、関係団体と連携して支援・活用する方策を示されたい。また、近隣市町との連携し、互いの物産品を取り扱うなど、広域的な連携を進められたい。

第2章 広域的に人を呼び込む観光と個性豊かで選ばれる商業の振興

- (1) もっと身近な自然を生かした取組を開発してほしい。特に三池山については、駐車場とトイレを整備し、誰もが登山など親しみやすいように環境整備をお願いするとともに、自然の魅力をアピールし、もっと活用していただきたい。
- (2) 視点1について、もう少し具体的な取組などを表現されたい。
- (3) 視点2の滞在時間を増やして回遊させる取組について、市内宿泊の視点も持って進められたい。
- (4) 視点3の広域連携的視点について、行政の区域に限らず、観光客の視点から有明海沿岸地域の周遊の視点が必要。市として推進されたい。また、佐賀県とも連携していくのであれば、そのことについても表現するよう検討されたい。

第3章 豊かな自然を活かした農業・漁業の振興

- (1) 新規就農者を増やす、あるいは、農家が安定して営農するためには、ブランド化などの農産物の付加価値の向上や販路を開拓の支援に取り組まれない。

3編 「誰もがいきいきと支え合い、元気に安心して暮らせるまち」

第1章 一人ひとりが尊重され、安心して暮らせる環境づくり

- (1) 第3編において、社会福祉協議会は重要なポジションを担うと考えられるため、もっと存在をPRすることが必要。
- (2) 空き地・空き店舗・空家を無償で貸し出し、子ども食堂・サロン活動等に利活用してもらう対策の検討をしてはどうか。
- (3) 8050問題やヤングケアラーの問題については、結局社会の人間関係だったり家庭内での人間関係が問題になっている。この問題を解決するには、頼れる人が必要であり、行政が担う役割は大きい。
- (4) 保護司の取組みを進める中で、如何に就労へ結びつけるかが最も困難。それがないと、再犯等につながってしまう。そこで、就労支援について、就労支援の部署が商工会議所等との協力体制を構築するとともに、そのことを計画に

入れてほしい。

第2章 誰もが生涯にわたって元気に暮らすための健康づくりと疾病予防の促進

- (1) 疾患に関しては、糖尿病などは将来的に透析という可能性が高く、医療費的としても大きいので、重点的に取り組んでいかれてはどうか。
- (2) マイナンバーカードを活用したマイナ保険証は、使われていくことで利便性が上がっていけば良いと思う。
- (3) 医師の高齢化、専門医不足により医療、診療体制を維持することができなくなることを懸念している。医療従事者の確保や、利用施設の運営に影響が生じないよう対策を講じて頂きたい。

第3章 高齢になっても、いきいきと安心して暮らせる環境づくり

- (1) 人が健康で生き生きと暮らすためには、生きがいと人のつながりが重要と思われる。地域の中での集いの場（サロン・サークル等）づくりやウォーキング、体操等の運動、食育の促進を図るなど、フレイル予防や介護予防対策を推進してほしい。
- (2) 本市の医療機関や医療連携並びに介護施設等の認知症を見守る地域連携などは、全国的にも非常に充実している。在宅医療や介護との連携など仕組みや使い方などを市民に分かりやすく啓発し、さらなる充実を図ってほしい。

第4章 障害があっても、社会のあらゆる場面で自分らしく暮らせる環境づくり

- (1) サン・アビリティーズは廃止され、総合体育館に機能を移転されるということだが、同じような事業を引き続きやっていただきたい。
- (2) 障害がある方がなるべく文化芸術に触れる機会を増やすことが大事である。触れるだけじゃなくて、自らが発表されるなどの機会があつていいのではないかな。
- (3) 障害者としても健常者としてもだが、スポーツをやることに対しての生きがいにもものすごく効果がある。特に、障害者の方々が本当の意味で活力みなぎる生活を送るということに対しては、スポーツを通じて、生活の中に潤いを持

つということは非常に大事なことである。障害のある人も安全に健康的にスポーツができるよう、指導者の育成に取り組んでいきたい。

4編 「人が行き交い、魅力にあふれ、都市と自然が調和した快適なまち」

第1章 快適で魅力ある都市環境と良好な都市景観の形成

- (1) 「大牟田わかもの会議」は、若者にフィーチャーした非常に良い事業であり、引き続き行政の支援をお願いしたい。
- (2) 基本方針に、環境負荷が少なくとあるがイメージしにくい。どんな街を目指すのかわかりやすく示すことはできないか。また、コンパクトな都市という表現は、周辺地域を見捨てているように読み取れる。
- (3) 若い世代には、「遊び」の要素も必要。空き店舗を活用してまちの活性化に繋げてほしい。

第2章 利便性が高く、多くの地域とつながる交通ネットワークの充実

- (1) 鉄道もバスも道路も恵まれている状況にあるが、人口減に伴い状況が変わる中、この状態を維持していくためには、バスを小型化するなどして効率化する必要がある。交通体系のスリム化について踏み込んだ記述をされたい。
- (2) 学生のような交通弱者にとっては、路線バスなどの公共交通は命綱なので、現在の水準を維持されたい。

第3章 人にやさしい居住環境の形成と空家等の予防・利活用

- (1) 市営住宅については、住宅確保におけるセーフティネットのみならず、入居中の高齢者などの生活等の支援が必要な居住者への支援もセットで考えてほしい。
- (2) 市営住宅でのコミュニティ活性化は困難な状況にあるため、保健福祉部や市民協働部との連携を含めた具体的な支援を考えられたい。
- (3) 北九州市などの家族が団地で楽しめる仕組みづくりのような、魅力ある住宅づくりやいろいろな人が共存できるあり方について検討されたい。

第4章 豊かな地域と自然を次世代につなぐ持続可能な社会づくり

- (1) 基本方針の3行目の「衛生的な生活環境の整備」という表現は、衛生的という言葉を用いると、不衛生な劣悪な環境をイメージする。衛生的は削除するか別の表現の方がふさわしいと思う。
- (2) 視点1の「教育機関」という表現は、教育の代表機関は学校であることから、「学校等の教育機関」とした方が良いのではないか。
- (3) 「動物の適正飼養」は難しくてなじみのない用語なので、ペットという単語を入れて分かりやすい表現にはいかがか。
- (4) 視点1の目的が温室効果ガスの削減と省エネに向けたエコ行動の二つに限定されている。環境保全行動というのは、家庭での生活排水の問題やごみの減量化、森林保全など、様々な環境保全行動があるため、二つに絞らない方が良いのではないか。
- (5) 行政だけでは環境施策の推進というのはできないので、様々な市民や民間団体まで協力し、進める必要があると思う。その中で行政と民間団体がうまく連携しながら施策の推進をお願いしたい。
- (6) 野良猫が増えないように、行政側の対応をお願いしたい。
- (7) 環境保全行動の促進策として、市民団体や事業者が補助金を申請するときなどに、環境活動や環境啓発セミナーに参加することで審査の加点になる制度の導入を検討頂きたい。
- (8) 課題として、全国平均より低い「汚水処理人口普及率」の向上が最優先と捉えている。このため、基本方針において、「汚水処理人口普及率」を飛躍的に高める旨を明確に打ち出してはどうか。

第5章 資源が循環する環境にやさしいまち

- (1) 現況と課題において、3Rのうち、特にリデュースとリユースの2つを抜き出すよりは、3Rの行動を促進した方が良いのではないか。
- (2) 現況と課題において、生ごみ・紙類が多いと記載されているため、ごみの減量化や資源化に向けて、具合的な取組を進められたい。

5編 「災害に強く、犯罪や事故の少ない、安心して安全に暮らせるまち」

第1章 防災・減災対策の推進

- (1) 防災士の資格を持つ市民を市が把握し、必要な情報提供や研修などに取り組んで欲しい。
- (2) 危険なブロック塀について、小学生や中学生、あるいは先生に通学路以外でも危険だと思う箇所を聞き取りしていただき、事故等がないように取り組んでほしい。
- (3) 実際に内水氾濫の被害にあったところをマップで示すことで、自分の住んでいる場所が過去にどのような被害があったのか知ることができ、市民にとっては便利なのではないか。
- (4) 流域治水については、行政のみならず、市民と意識を共有した上で、取り組んで頂きたい。

第2章 消防・救急・救助体制の充実と予防活動の推進

- (1) 女性団員を募集するにあたり、こういう仕事がある、こういうところで活躍をお願いできないかなど、女性が入りやすい広報活動、PR活動をしていただきたい。
- (2) 消防団の在り方については、団の中の縛りやポンプ操法大会が負担になると言われている中、時代に合わせた見直しを検討いただきたい。
- (3) 消防団員の①命やけがを守ることを、団員にどう教育していくかも大事である。②身を守る安全教育をしっかりとやってほしい。

第3章 事故や犯罪のない地域づくり

- (1) 令和4年4月1日からの成年年齢引き下げもあり、若者の消費者トラブルの未然防止を強化してほしい。
- (2) 若年層の薬物使用が広がっており、大麻の次は麻薬に走る状況である。学生のうちからの指導と正確な教育が必要であると考えます。

- (3) 暴走行為などは SNS などでは拡散して人が集まっている状況もあると思われるため、市と警察等で協力し、事前把握に努めてほしい。
- (4) 保護司会の後継者不足が懸念されている。新しいなり手を増やすためにも、保護司の活動の周知についても取り組んでほしい。

第4章 安全な水の安定的・持続的な供給

- (1) 水道料金の見直しや水道民営化については、市民の負担や影響がないよう検討して頂きたい。
- (2) 自宅周辺の水道管について、敷設されどのくらい経過しているか情報を公表して欲しい。

計画の実現に向けて

第1章 市民と行政がともに進めるまちづくり

- (1) 町内会等の加入率の低下や役員等担い手の高齢化、不足は深刻である。地域コミュニティの活性化や加入率の向上、担い手不足の対策等については、わかりやすく具体的な表現に変えてほしい。
- (2) 防災や環境問題、子育ての関係など、若い方や事業者、企業、事業所など幅広い年代層を巻き込んで取り組めるものについて、ぜひ検討してほしい。
- (3) 都市化が進めば進むほど、今までの住民の方だけが役割を担い、担い手の高齢化や担い手不足が進む。コミュニティの存続のためには、マンションなどへの新しい住人に何とか加入してもらえるよう、大手建物賃貸事業者に働きかけを行う等、この課題について検討いただきたい。
- (4) 都市では、同じ趣味や考えなど、地域ではないくくりでコミュニティが存在している。担い手がないということは極端な話、必要がなくなっているということではないか。大牟田市でも地域だけではなく、同じ属性によるコミュニティをつくるなど考えていただきたい。

第2章 まちの魅力アップと市内外へのプロモーション

- (1) 移住・定住については、広報やプロモーション活動、特に若い人に向けた情報発信が重要であり、重点的に取り組んでいただきたい。
- (2) 大牟田市の良さを紹介する「トリセツ」は大変良い冊子であるため、大いにアピールしていただきたい。また、配布する場所も学校などを検討していただきたい。
- (3) 移住支援金については、県外の人を対象であるため、荒尾市も対象となるので、PRしていただきたい。
- (4) 就職や進学等で一度市から離れ、再び大牟田市へ戻ってきた人を支援する取組については、国や県とタイアップしながら、ぜひ進めていただきたい。
- (5) マスコミによる報道のインパクトは大きく、また、他自治体と違うところや良いところを上手にアピールする必要があるため、様々な方法を検討していただきたい。
- (6) おおむた大使をホームページに掲載することで、本市をアピールできるし、何より本人も大使なって良かったと励みになる。有名な方や著名人と協力しながら、大牟田市のPRに繋げていただきたい。
- (7) 都市の賃貸住宅は家賃が高くて狭いという課題があるが、本市は比較的安価な家賃で広い物件を借りることができることをプロモーションした方がよい。
- (8) ワークেশョンを兼ねて、市内の空き家ツアーを企画するなど、大牟田の良さをPRするだけでなく、どうやったら大牟田に住んでもらえるかという方向にプロモーションをシフトしていくとより魅力的に感じるのではないかと。
- (9) 若者に一番効果があるPRは、インスタグラムのストーリーズの広告なので、ターゲットを絞って、宣伝していただきたい。
- (10) 視点1については、シティプロモーションの目的は「自治体を維持していくこと」であり、地域の経済力を向上させ、「魅力ある地域として人々に選ばれる街」を目指すことなので、「シティプロモーションとあわせて、」の部分は不要ではないかと。
- (11) 基本方針については、「住みたい・住み続けたい・訪れたい・応援したい」と思ってもらえる「選ばれるまち」としてはどうか。

第3章 健全で効果的・効率的な行財政運営

- (1) 行財政運営の中で、有能な職員の人材確保・育成・適正配置についての対策が望まれており、市民に信頼される市役所であっていただきたい。
- (2) 女性の活躍の場を行政に設けることは有意義であり、女性も管理職で活躍できるとなると、やる気のある人が受験することにもつながり、また多様な視点から様々なプランもより広い視点で提案していただける。

第4章 行政サービスの利便性向上

- (1) デジタル技術や民間活力の活用による人員削減により、サービスの低下が懸念されることがないように、バランスをとって頂きたい。